

4. 論文の訂正：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合，原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し，編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎，また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし，特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)，英文は6,825円(税込)，超過頁は1頁につき7,350円(税込)，写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)，6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける。
8. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer・PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

今，巷は日本プロ野球の行く末に関する話題でもちきりである。約10年前，大変な難産のもとでスタートしたプロサッカーリーグの繁栄と比較すると，その衰退ぶりは著しい。

プロ野球衰退の原因に，スポーツの国際化が大きく影響していることは間違いない。日本人選手が大リーグで活躍し，その全試合がテレビ中継されライブで観戦できる時代になった。かつての「オリックスのイチロー」，「巨人の松井」は「日本のイチロー」，「日本の松井」となって全国民の注目をあびている。いっぽう，国内の野球はというと，資金力にものをいわせて人気選手をやみくもに雇い入れるような球団があるように，度量の狭い勝利至上主義の運営がサポーターの想いとの間大きなギャップを作ってきたように感じられる。

サッカーでも多くの日本人選手が海外で活躍し，その試合もテレビで観戦できる。野球との大きな違いは，4年に1回のワールドカップをはじめとして，たくさんの国際テストマッチが頻繁に行われていることであろう。サポーター達は，ある時は各地域の住民として，またある時には日本人としてのアイデンティティを意識しながら熱くサッカーを応援できるのである。野球も日本国内にこだわらず，韓国，台湾などを含めたアジアリーグを企画してはどうかと思う。

もちろん医学・医療においても国際化は重要である。そして，ここでも日本や日本人としてのアイデンティティが大切だと思う。さもなければ，プロ野球同様に大切なものを失ってしまう可能性がある。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第50巻 第10号 2004年10月25日 印刷 2004年10月31日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190
<http://www.kiyou.jp/>

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
